

カピステン筋注 50mg

【この薬は？】

販売名	カピステン筋注 50mg CAPISTEN Intramuscular Injection 50mg
一般名	日局ケトプロフェン Ketoprofen
含有量 (1アンプル 中)	50 mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている電子添文を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に電子添文情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、非ステロイド性鎮痛・解熱・抗炎症剤と呼ばれるグループに属する注射薬です。
- ・この薬は、炎症にかかわるプロスタグランジンという物質の産生を抑えることで、鎮痛、消炎、解熱、抗炎症作用をあらわします。
- ・次の目的で、医療機関で使用されます。

下記の疾患ならびに状態における鎮痛・消炎

術後、外傷、各種癌、痛風発作、症候性神経痛

緊急に解熱を必要とする場合

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・消化性潰瘍のある人
- ・血液に重篤な異常のある人
- ・肝臓に重篤な障害がある人
- ・腎臓に重篤な障害がある人
- ・心臓の機能に重篤な異常がある人
- ・過去にカピステン筋注に含まれる成分で過敏症のあった人
- ・アスピリン喘息（非ステロイド性消炎鎮痛剤などにより誘発される喘息発作）のある人、または過去にアスピリン喘息になったことがある人
- ・シプロフロキサシンを使用している人
- ・妊娠後期（妊娠 28 週以降）の人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・過去に消化性潰瘍があった人
- ・血液に異常のある人、または過去に血液に異常があった人
- ・出血しやすい人
- ・心臓の機能に異常のある人
- ・気管支喘息のある人
- ・潰瘍性大腸炎の人
- ・クローン病の人
- ・感染症にかかっている人
- ・腎臓に障害のある人、または過去に腎臓に障害があった人
- ・肝臓に障害のある人、または過去に肝臓に障害があった人
- ・妊娠（妊娠 28 週以降を除く）または妊娠している可能性がある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用してはいけない薬[シプロフロキサシン製剤(シプロキサシ)]や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

●使用量および回数

使用量、使用回数は、あなたの年齢、症状などにあわせて医師が決め、医療機関において殿部筋肉内に注射されます。

通常、成人の使用する量は、次のとおりです。

【鎮痛・消炎の目的に用いる場合】

一回量	50 mg
使用回数	1 日 1～2 回

【解熱の目的に用いる場合】

一回量	50 mg
使用回数	1 日 1～2 回

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬による治療は病気の原因に対して行われるものではなく、症状を軽減するために行われるものです。
- ・この薬を長期間にわたり使用する場合は、血液や尿、肝臓の働きを定期的に検査されます。異常な症状があらわれた場合は、医師または薬剤師に相談してください。
- ・この薬の副作用として、体温の下がりすぎや、虚脱、手足が冷たくなるなどの症状があらわれることがありますので、特に高熱のある小児、高齢の人や消耗性疾患の人およびその家族の方は、この薬を使った後の状態に十分注意してください。異常な症状があらわれた場合は、医師または薬剤師に相談してください。
- ・妊娠後期（妊娠 28 週以降）の人はこの薬を使用することはできません。
- ・妊婦（妊娠後期以外）または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どうき）、息苦しい
中毒性表皮壊死融解症 ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしゅう	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい
ネフローゼ症候群 ネフローゼしょうこうぐん	尿量が減る、排尿時の尿の泡立ちが強い、息苦しい、尿が赤みを帯びる、むくみ、体がだるい、体重が増える
心筋梗塞 しんきんこうそく	しめ付けられるような胸の痛み、息苦しい、冷汗が出る
脳血管障害 のうけっかんしょうがい	突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然片側の手足が動かしくくなる、突然の頭痛、突然の嘔吐（おうと）、突然のめまい、突然しゃべりしくくなる、突然言葉が出にくくなる

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、ふらつき、発熱、むくみ、体がだるい、体重が増える
頭部	突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然の頭痛、突然のめまい、めまい、意識の消失
顔面	顔面蒼白
口や喉	突然の嘔吐、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる、喉のかゆみ
胸部	しめ付けられるような胸の痛み、息苦しい、動悸
手・足	突然片側の手足が動かしくくなる、手足が冷たくなる
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ
尿	尿量が減る、排尿時の尿の泡立ちが強い、尿が赤みを帯びる

【この薬の形は？】

性状	無色澄明、水性注射剤 アンプル剤
形状	

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	日局ケトプロフェン
添加物	L-アルギニン、ベンジルアルコール、pH調整剤

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：キッセイ薬品工業株式会社 (<https://www.kissei.co.jp/>)

くすり相談センター

フリーダイヤル：0120-007-622

受付時間：9時～17時40分（土日祝日・当社休日を除く）